

日頃より大変お世話になり、ありがとうございます。

7月の大雨による水害・土砂崩れ、連日の猛暑、次から次へと到来する台風。今年は、厳しい夏となっています。

我が国は、平成に入ってから、**1日の雨量が100ミリ以上降る大雨の日数が増えています**。当面とるべき対策については、先月号で指摘しましたが、**今回は中長期の対策について考えてみたいと思います**。

1) 国土交通省の河川整備の方針は、桂川のような大河川については、「100年から200年に一度の大雨」に対応することを目指しています。しかし、これはあくまで計画であり、実際は「30年から40年に一度の大雨」に対応できる水準を目指しているにすぎません。しかもこの目標とてまだまだ途上にあります。

今や「50年に1度の大雨」が頻発している時代です。河川整備の実際の目標をあらためて、早急にその達成を目指して作業を進めるべきです。

2) 土砂崩れによる被害も馬鹿になりません。そのためにも、山の整備が必要です。外材の値段が下がっている中、早急に地産地消の理念に基づいて、林業の復活を

国の大方針に組み込むべきです。公共の建物は、地元の木材を使うための政策、また地元の木材を利用した所有者の固定資産税を減免するなどの促進対策が求められます。林業が生業として成り立たなくなったため、供給体制もかなり細っています。同時進行的に充実しなければなりません。

3) もう一つは、人口減少で過疎地が増え、とりわけ、もはやお年寄りしかいない「高齢・無子」の集落が増えてきます。他方で、若者の人口が減り、消防、警察、行政も、さらに人手不足状態になります。災害にさいして、どこまで救済することができるのか。これは深刻な問題です。インフラ整備といっても、財政が厳しい中、どこまで対応できるのか。苦しい決断を迫られています。先祖代々の土地を離れたくない、という人情に理解を示しながらも、冷静な政策を実行することが強く求められています。

先月号の繰り返しになりますが、治山治水は、政治の要諦です。政治の「治」の語源は、本来そういう意味です。皆様のご意見を吸い上げながら、これからも奮闘してまいりますので、ご指導よろしく申し上げます。